MDHCだより　NO. 74

H28. 4. 19

三河歯科衛生専門学校

平成２８年度　２０年目の新たなスタート

教務部長　　近藤　保子

日頃より指導者の皆様にはご指導・ご協力をいただき心より感謝しております。

本校が開設してから早いもので、今年で２０周年を迎えます。これも臨床実習指導者の皆さま、講師の皆さまのご支援の賜と心よりお礼申し上げます。

本校が設立した背景には、岡崎歯科医師会をはじめとする西三河８歯科医師会（当時）の、「西三河における歯科医療と保健福祉の向上を目指す上で、良質な歯科衛生士を確保する」という共通の考えがありました。それゆえに、西三河歯科医師会からは積極的にご支援・ご協力をいただいております。

この３月には１７回生を送り出し、卒業生の総数は７６１人となりました。そして、その６～７割が西三河の歯科医院へ就職をしています。西三河の歯科衛生士養成校として、期待に応えられるよう精一杯努力してまいりたいと思います。

臨床実習・臨地実習は、医療・保健環境のみならず直接患者さまや住民の方々と接することにより、全人的理解や医療の倫理観を培う重要な教育的役割を持っています。

指導者の皆様には、今後とも大変お世話になりますが、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

１　入学式（２０回生）

平成２８年度入学式が４月７日に執り行われ、希望に胸を膨らませた新入学生３２名が決意も新たにＤＨになるためのスタートを切りました。

西三河地区歯科医師会を代表して岡崎歯科医師会の和田会長より「今日ＤＨは世の中から期待・注目をされ、なおかつ人材が不足している。一人として欠けることなくＤＨとなり、我々のもとに来て人々の健康増進のために活躍してくれることを願っている。」とＤＨの重要性を、愛知県歯科衛生士会の久田専務理事より「人は相手に信頼と敬意を持って接することが大切であり、この営みが積み重なり絆を作る。出会いは自分を成長させ、人生を豊かにしてくれる。」と充実した生き方とともに激励のお言葉を頂きました。

２　臨床実習２期まとめから

臨床実習２期で学べたことを一人ずつ発表し、学びを共有することで、新たな目標を見つける学生もいました。また、１期同様に自己評価を行い成果の確認も行いました。

１）臨床実習２期で学べたこと～抜粋～

『指導者に“○○できるようにしたい”ではなく“○○できるようになる”と思って取り組むようにアドバイスをいただいたら、自然と積極的に取り組むことができた。その後、苦手なことを克服し、もっと色々やりたいと楽しく感じ、意識の違いで自分が変われることを知った。』

『病棟の口腔ケアでは、日々変化していく患者様の口腔内の管理方法、ＮＳなど多職種との連携の重要性など、ＤＨの役割を深く学ぶことができた。』

『自分にはまだ知識の引き出しもなく十分なＴＢＩはできないが、指導ＤＨから知識はもちろん、それぞれの患者様に合った方法でアプローチするために個々の生活状況や背景の情報収集をすること、一方的な説明にならないように配慮し、患者様に発言してもらいながらラポール（信頼関係）を形成していくことの大切さを学ぶことができた。』

まだまだ未熟な学生達ですが、臨床の現場でしか学べない大事なことを吸収し、少しずつ成長している様子がわかります。

２）自己評価

『基本的事項に関する評価』

①社会人としての基本姿勢（7項目合算平均）

	１期	２期
よくできた	44.0%	52.6%
できた	42.9%	37.2%
あと少し	2.4%	10.2%
できなかった	0.8%	0%

②患者理解（2項目合算平均）

	１期	２期
よくできた	46.1%	51.3%
できた	38.2%	46.1%
あと少し	15.8%	2.7%
できなかった	0%	0%

③学習姿勢（6項目合算平均）

	１期	２期
よくできた	22.4%	26.3%
できた	46.5%	56.6%
あと少し	27.2%	16.2%
できなかった	3.9%	0.9%

『実習帳に関する評価』（5項目合算平均）

	１期	２期
よくできた	25.8%	33.7%
できた	43.7%	46.3%
あと少し	27.4%	19.5%
できなかった	3.2%	0.5%

『歯科診療補助に関する評価』（13項目合算平均）

	１期	２期
よくできた	13.4%	16.8%
できた	42.1%	53.9%
あと少し	36.0%	23.1%
できなかった	3.2%	1.0%
実習していない	5.3%	5.3%

１期に比べ全体的に評価は上がっていますが、社会人の基本姿勢で“あと少し”が増加していることに不安が残ります。

３　主な行事予定

・レクリエーション(ボーリング大会)　5/ 6(金)

・連尺小学校保健指導実習　6/ 2(木)